



③統制された情緒関与の原則とは？



A バイステックの7原則③、ですね。

人と関わる援助者の行動規範として有名なものに「バイステックの7原則」があり、今回はその3つめ「統制された情緒関与の原則」です。

子どもや保護者と関わっていく際に、自由な感情表現に共感することは大切なこと、でしたよね。でも、相手の感情に振り回されてしまうと、よい関係性を構築できません。そのために、自分の感情をコントロールして冷静に関わっていこう、という考え方です。

Aくんという子どもに深く感情移入しているとします。その状態でほかの子どもとトラブルになってしまうと、ひょっとしてスタッフはAくんの肩を持ってしまいかもしれませんよね。しかし、それでは公平ではなくなってしまいます。

スタッフの役割は、Aくん(特定の人物)に肩入れしたり同情したりすることではないですよ。なぜトラブルになったか、や、そもそもトラブルになる原因を考えて、Aくんの問題となっていることを解決することです。そのためには、スタッフは自分で自分の感情をコントロールできるようにならなくてははいけません。

子どもや保護者に共感することはとても大切なステップです。だからと言って、行き過ぎた感情移入は考え物ですよ。冷静かつ正確な気持ちで「本当に必要な支援」はなにかを見つめることが必要になってきます。

大きな感情をぶつけてこられると、自分も同じだけの大きさに受け止めようとしてしまいますよね。それが激しい感情であればあるほど、スタッフも感情的になってしまいがち。そういうときに、気持ちのコントロールが必要になってくるのですね。

ここで必要になってくるのが、問題を解決したい、という目的です。子どもや保護者の気持ちに寄り添いながらも、流されたり過度な感情移入しない姿勢が大切になってきます。「共感してほしい」「解ってほしい」という子どもや保護者のニーズを受け止めながら、適切に感情をコントロールできている自分が居るか、を意識できていなければなりません。

自分の感情を自覚できているだろうか？
いま抱いている感情はだれのもの？
感情移入しすぎていない？
ノリすぎて無茶振りしていない？
ウルウルしてしまっていない？
いつもの冷静さは保っている？

自分の心が波立ったときには、気持ちに距離を置いてみて冷静さを取り戻せるか、をやってみる必要がありますね。
子どもの話に共感しながらも、状況を冷静に分析する姿勢が必要なのですね。

[《MENU》](#)

[《②意図された感情表現の原則とは？》](#)

[《④受容の原則とは？》](#)

2023-06-19 掲載